

七条中学校だより2月号

京都市立七条中学校

令和8年1月30日

発行：校長 林 秀雄

「人が環境をつくり、環境が人をつくる」

私は完全下校後、校舎の施錠のため、各教室を確認しています。その時、机の並び、黒板、ロッカー等の教室の様子も見っていますが、クラスによって様々な特徴がありますね。特に目に付くのは、ロッカーや机の中などの物の置き方です。みなさんのロッカーや机の中はどうでしょう？

「人が環境をつくり、環境が人をつくる」とは、人間と周囲の環境（場所、組織、人間関係）は相互に影響し合い、成長や変化を促し続けるという概念です。自ら良好な環境を整えることで、自身もその環境によってより良い人間に成長できるという意味でしょうか。

これを社会生活や学校生活の場面で考えてみましょう。例えば、自宅近くの道端で、落ちているゴミに気づいたときや、地域のゴミ集積所が荒れているのを目にしたとき、皆さんは心の中で何を思うでしょうか。

「自分が捨てたゴミではないのだから、関係ない。」「住民個人ではなく自治体の責任として、町の清掃に従事する人を増やすなどの対応をしてもらいたい。」「そもそも、悪いのはマナーを守らない人ではないか。」確かにそういう面も、ないわけではないでしょう。

しかし、人は小さなゴミでも放置されているのを目にすると、その場所にゴミを捨てることへの抵抗感が薄れていくそうです。それは「環境が人の心に影響を与えている」ということになります。ゴミが放置された場所には、ゴミがたまっていきます。「自分には責任がない」と思って見過ごしているうちに、誰かが捨てた小さなゴミが積もり積もって、生活が悪化していくのです。そこには、「ゴミの山」という形が残るだけではありません。「無責任」や「無関心」という空気が地域社会全体を覆うことにもなりかねないのです。社会とは、ここで生活する私たち一人一人が集まることで形づくられるものです。そうであるのなら地域社会の状況がどのようなであろうと、「自分には関係ない」とは言い切れないのではないのでしょうか。私たちが道端に落ちているゴミから目を背けてしまうのは、心のどこかで「自分には関係ない」「自分がゴミをひとつ捨てたところで、状況は何も変わらない」と思っているからかもしれません。私たちが無責任や無関心を貫く限り、世の中（状況）が良くなっていくことはないでしょう。大切なのは、落ちているゴミを拾うだけのことではありません。一人一人が自らの心の姿勢を省みて、小さな行動を起こすことで、より良い社会を実現する道を拓いていくことではないでしょうか。

さて、来週から2月が始まります。これまで一緒に生活してきたクラスの仲間と過ごすのも2ヶ月を切りました。今私が話してきた「地域社会」「社会生活」の部分を今の七条中、学校生活、クラス、に置き換えてみてください。学校・クラスも地域社会の縮図です。学校やクラスをより良くするためには、無責任、無関心ではなく、さまざまな活動に関心を寄せて、自分に出来る範囲で協力をしていくこと。毎日の学校生活の身近なところにも、大切な取組が隠れていると思います。

3学期の始業式で「自分が変われば、世界の見え方が変わる」という話をしました。世界を変えるために大きな力はいりません。まずは自分の意識を少し変えてみることに。今自分が暮らすこの場所で、自分にできる小さなことをするだけでもいい、一人一人が自分の心の姿勢を変えていった先には、やがてクラス、学校を変えるほどの力がうまれるかもしれません。七条中は居心地がいいですか。私たち教職員は誰もが安心して過ごせる、居場所のある学校にしていきたいと強く思っています。

残りの1ヶ月半は、卒業や進級を目前にした日々です。縁あって一緒になった仲間と限られた時間を大切にしたいと思っています。

三年生のみなさんへ

三年生のみなさん、いよいよ進路実現に向けた大切な時期を迎えました。日々の学習に励みながら、ここまで本当によく頑張ってきました。みなさんの努力の積み重ねを、教職員一同、心から誇りに思っています。受験は、これまでの学びを試す場であると同時に、みなさん自身が「どんな未来を選び、どんな人になりたいか」を考える大切な機会でもあります。不安や緊張を感じるのは当然です。これまで思い通りにならないこともあったかもしれません。何度となく、悩み、迷い、立ち止まりかけたこともあったでしょう。それでもあきらめずに前へ進むみなさんの姿こそ、成長の証です。合格という結果だけではなく、この期間に培った「粘り強さ」や「挑戦する姿勢」は、これからの人生にとって必ず大きな力になります。「これまで頑張ってきた自分」を信じ、「なりたい自分」に向かって堂々と進んでいきましょう。

みなさんの健闘を、心から応援しています。

※変更する場合がございます。